



令和3年7月から8月にかけて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会がコロナ禍の中、1年遅れで開催されました。半年後となる令和4年2月から3月にかけて、北京2022オリンピック・パラリンピック競技大会が無事開催されました。

夏季大会では、高温多湿の猛暑の中での開催となるため、開催時期の変更、開催都市が1か所であることの弊害、開催規模とともに商業主義が拡大することによる開催コストの改善等、あらため

オリンピック・パラリンピックを終えて〜雑感

て課題が浮き彫りになったような気がします。サッカーやラグビーのワールドカップは、国単位での開催で国内各都市で試合を行うため、国全体が盛り上がり感を感じます。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、大リーグ・エンゼルスの大谷翔平選手の大活躍の陰に隠れた面もありましたが、何はともあれ、アスリートの皆さんの熱き活躍には胸を踊らされました。いつの時代でも元気をいただけますね。

オリンピック精神であるフェアプレーの精神に反して、「ドーピング問題や審判の判定の不明確さ、さらには、戦争や人権問題の影響による参加選手の出場拒否といった問題が起きました。いつになったら、クーベルタン男爵の精神が反映されるのでしょうか。あえて付言すれば、獲得メダル数を国別で競うことも止めた方が良くと思います。選手が精一杯のプレーをしたら、拍手喝采で良いように思います。(大藪)

やぶやぶニュース

2022年(令和4年)
3月30日 水

- 巻頭言 1
- 地震保険の意義 2
- 線虫検査体験記 3
- 編集後記ほか 4

発行所 株式会社大藪保険コンサルタント 〒167-0032 東京都杉並区天沼3-2-6-2階 電話(03)3392-6765 www.yabuyabu.com

巻頭言

今こそ、墨子に学ぶ世界平和の精神

春号は、明るいニュースから伝えたかったのですが、残念なことに、不安が募る春先となりました。

ウクライナ情勢は、相変わらず予断を許さない状況です。本号が発行される頃には、明るい兆しが見えてくることを希望します。プーチン大統領の言動を観察すると、旧ソ連のスターリン大元帥を彷彿とさせます。こうした状況が続くと、ガソリン等のエネルギー価格の上昇とともに、消費財の物価も上昇し



ます。転じて、コスト増により企業業績が悪化し、株価も下落します。そうした状況では、企業は積極的な設備投資を控えるでしょう。さらに、紛争当事国のハッカー集団による敵対国へのサイバー攻撃も経済社会活動に影響を与えていくでしょう。

いかなる戦争にも正義はない、ましてや侵略戦争なんて許してはならない、と訴えた思想家をあらためて思い出しました。「墨子よみがえる」(半藤一利著)からご紹介したいと思います。

墨子は、中国戦国時代に活躍した墨家の開祖です。同時代には儒家の開祖である孔子もいます。墨子は、理想主義者であったため、後世、孟子らに否定され、あまり知られていません。墨子は、「人類が皆、等しく愛し合い、差別することなく認め合い、お互いの利益のために汗水を流して尽くしさえすれば、この世から愚かな戦争はなくする」と説き、実践した人物です。例えば、戦争に勝利しても、その後は民衆が悲惨な状

況に陥ると述べ、戦争に逸る国王を説得しました。まさに仁義の人でした。

後世のイエス・キリストが説いた「汝の敵を愛せよ」の格言にも通じます。また、墨子は、貴賤を問わず有能な者を登用することや、人は努力して働けば自分や社会の運命を変えられること、個利のためではなく、社会のために「大義」を基に「天」に恥じることなく実践することであると説きます。墨家の思想は、宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ」や新渡戸稲造の著書「武士道」にも通じていたのです。

良いこと言いますね!「男はつらいよ」の歌詞ではありませんが、私は「奮闘努力の甲斐もなく」と口ずさんで流されてしまうのですが...。2019年12月、アフガニスタンで治水事業のボランティアの最中に凶弾で倒れた中村哲氏も墨子を尊敬する一人でした。「一隅を照らす」「人は愛するに足り、真心は信じるに足る」等、名言を残しています。本気でアフガン民衆の飢餓を救おうと行動していました。世界平和を考えて、努力しているか? ジョン・レノンのイマジ

ンが聞こえてきます。

DXやAI、IoT等が活用されている、合理的な現代では、夢物語のような発想なのでしようが、実践主義は、宿命論に身を委ねることを厳しく戒めています。国家のため、社会のために己に厳しく努力して働きなさい。これは、儒教の陽明学にも通じる実践です。陽明学は儒教の一派ですが、理念を基に行動を優先する学問です。幕末、我が国で陽明学を学んだ人物のうち、大塩平八郎や河合継之助、山田方谷らが活躍しました。同じ儒教でも、意志や感情よりも、知性や理性の働きを重んじる朱子学とは異なりますね。

未だ我が国の保険業界は、「何かのついで」や「セット販売」のような片手間の営業スタイルです。本物の専門家が必要とされています。「誰のための、何のための、どのような保険」であるべきかを社員全員で共有して、天に恥じない行動を肝に命じ、全ての人に安全・安心をお届けします。広い愛の精神で、世情不安な本年を乗り切りたいと考えております。ご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。(大藪)

拡大版

編集後記

皆様、こんにちは。新編集長の増田裕一と申します。今号のやぶやぶニュースはいかがでしたでしょうか?

前編集長の杉山充枝よりバトンを受け継ぎ、今号より編集長を務めさせていただきましたこととなりました。未熟者ではございますが、誠心誠意努力しまして、皆様にご満足いただける記事を提供できるように励んでまいります。前任者同様、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

さて、初めてお目にかかる方も多いかと存じますので、私・増田裕一について自己紹介させていただきます。

- ・ 昭和52年5月30日生
- ・ 宮城県塩竈市出身(江戸時代前期の俳人・松尾芭蕉が立ち寄ったと言われる「野田の玉川」はすぐ近所)
- ・ 血液型B型(初対面の方にはなかなか言い当てられません)
- ・ 星座IIふたご座
- ・ 家族構成II父、母、妹が宮城県在住。妻、長男、長女、次男と東京都杉並区に在住。



略歴II平成8年3月、宮城県立仙台第三高校卒、平成12年3月、中央大学卒、法令出版社、塾講師、都議秘書、杉並区議を経て現職。

趣味・特技II弓道初段(高校3年間、部活動で取り組んでいました)、応急手当指導員(消防団員として、地域住民の方を対象に救命指導を行っています)、料理(休日私がつくります)

・ 社会活動等II杉並消防団第7分団(入団以来16年間活動を続けています)、保護司(犯罪や非行をした方たちと面談し、更生を図るために指導助言を行っています) 堅物な私ですが、どうぞよろしくお願いいたします。